目指す学 文武不岐の伝統精神のも 校像	とに教育活動を推進し、	高い知性とたくましい心を持ち、社会に貢献する人材を育成する。	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
・国公立大に関しては現役合格が 147 名で6年連続の120名台となった。上位校は北海道大、東北大、東京外国語大に各 1 名合格した。筑波大合格者は現役 9 名、茨城大については47名が合格した。 ・私大の上位校合格者は早慶上理8 名、GMARCH40名とまずまずの結果であった。	出すカリキュラムの改善と学習指導の向上	①教科・領域の探究を中心にコミュニケーション能力・批判的思考力・論理的思考力の育成に努める。 ②課題解決型学習(PBL)により、正解のない問いに協働して納得解を導く機会の創出に努める。 ③ ICT 機器などを効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びの実践に努める。 ④生徒に自学・自習の習慣や自ら問いを立てるなど主体的な学習態度を身につかせる。 ⑤新学習指導要領において、指導に生かす観点別評価を工夫し、指導と評価の一体化を進める。	A
む生徒の姿はだいぶ見られるように なっている。意識が高い生徒が増え、 早いうちから進路室を訪れるように なり、相談や資料探し、貸し出し図 書の利用も多くなった。	Ⅲ 生徒の自己実現を達成する進路指導と進学 実績の向上	⑥生徒に高い志を持たせる機会を積極的に設け、キャリアパスポートの効果的な活用に努める。 ⑦個別面談等により生徒の「進路設計と課題の明確化」を行い、進路意識の向上に努める。 ⑧学年・教科・学習進路指導部間での情報共有と協働により、学びに向かう力の育成と人間性の向上に努める。	
・令和3年度の卒業生においては、国 公立理系型の生徒が多く、生後まで 諦めず多くの科目を学習した結果、 国公立大学の合格者が増加したと考 えられる。下級生は、1年2年次の 学習量の絶対量の不足は続いてお り、学習している生徒とそうでない 生徒の差が大きい。		③各種特別活動・様々な教科、領域を融合し、生徒の自主性・自立性さらに創造性を育成する。⑩成人年齢引き下げを受け、市民として備えるべき資質能力の育成に努める。⑪校則や制服の見直しなど、生徒が自ら考える場を設定するなど、自治活動の充実に努める。	В
・制服は生徒との話し合いながらの校 則改正もあり正しく着こなせてい る。自転車運転マナーも身に付き つつあるが、一部の生徒に並進運	ハイスクール事業・国	⑫課題研究・探究の質的向上のため、共通理解と教科横断的な視点での組み立てに努める。 ⑬高大連携など、実施に必要な人的、物質的な体制の確保とその改善に努める。	A
転が見受け られる。また、携帯やスマートフォンの使用マナー等に関して未だに未熟な点がある。 ・運動部・文化部とも高い加入率を維持し、活発な活動により成果を上げた。今年度も学習との調和を重視し、自主的・主体的な活動を促していきたい。	コンプライアンスの徹 底	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	В

	三つの方針	具体的目標	評価		次年度(学期)への主な課題
三つの方針	「育成を目指す資質・能力 に関する方針」(グラデュエ	○高い知性とたくましい心を持ち、グローバルな視点を持った、社会に貢献する人財	В		・リーダーとして、世界的視 点で考え社会に貢献しようと する態度を養成
ゴ (スクー ル・ポリ シー)	「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー)	○自ら学び、自ら考える「確かな学力」の育成と、将来を見通した進路の決定とその実 現の支援	В	В	・生徒自身が自ら考える授業 スタイルの具現化
	「入学者の受入れに関する 方針」(アドミッション・ポ リシー)	○人文科学、自然科学、社会科学など様々な分野に興味を持ち、主体的・協調的に深く 探究しようという強い意欲のある生徒	В		・中学関係者がわかりやすい 期待する生徒像の明示と広報

評価項目			関連事項	郵	価	次年度への課題
町 川 次 日			I		іші	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
	・授業を中心とした学習活動と自学自習の主体的な	・家庭学習の定着を図るとともに授業を中心とした予習・復習の学習スタイルを確立させ、主体的に学ぶ姿勢を育成する。	I I	В		・基本的な生活習慣について、 挨拶やモラル、ルールを守る
	学習スタイルを定着を図 る	・英語や国語の小テストなどの実施により、学習の習慣化と基礎力の定着を 図る。提出物の期限を厳守させ、学業重視の態度を育成する。	234	В		ことなど、人として出来なければならないことが疎かにな
1	Ψ	・補習や課外を実施して、生徒の個々に応じたきめ細やかな指導を行う。	24	A		っている生徒が多い。細かく
	・基本的な生活習慣の確立	・個別面談や学校行事、クラス行事など様々な場面において、積極的に生徒	9	A		指導していく必要がある。 ・小テストや定期考査に向け
	をめざし、規律正しい学 校生活が送れるよう自己	と接し、適切な指導や支援を行い、自律的な生活の定着を図る。 ・緑高生としての誇りを持たせ、あいさつの励行、身だしなみや規範意識の	910	В.	Α	て、計画的に学習する習慣を見につけさせる。
学	指導力の醸成に努める。	高揚を図る。 ・整理整頓を心がけ、自ら進んで清掃するなど環境美化を指導する。	910	 A		・大学研究やオープンキャン パスへの参加を通して進路目
		・学校行事、部活動、生徒会活動に積極的に取り組ませることで、生徒個々	(1)(8)(9)	A		標を考えさせ、受験に向けて 指導していきたい。
年	全な人間関係の構築と共に、自立性・主体性の育	のコミュニケーション能力、主体性、協調性を育み、人間的成長を促す。 ・HR活動や学校行事を通して、相手を尊重する心や積極的に集団へ寄与す	; !			・修学旅行、海外研修を成功させる。
+	成をはかる。	る姿勢を育み、人間的な力量・能力の向上を図る。	1 1 1 1	A		C 6.0°
	・将来自分が就きたい職業	・キャリア講演会・進路講演会・サイエンスツアーを実施し、進路意識の啓	1267	A		
	や、興味のある学問を考え、進路目標の明確化を	発を図り、進路目標の明確化を支援する。 ・的確な学科コース選択を支援するために学科コース説明会を充実させる。	<u>(8)</u> <u>(6)</u> 7	A	Α	
	図る。	・的確な学科コース選択を支援するために学科コース説明会を充実させる。 ・学科コース選択のための生徒面談を実施すると共に、「Classi」等の活用に より情報を提供し、保護者と連携を図り、適性に応じた適切なアドバイス	678	A		
		を行う。	1 1 1 1	71		
	・授業を中心とした学習活	・手帳を使い課題や予定を管理し、自律的な家庭学習の定着を図り、授業を	312	В		・学習時間の管理について、
	動と自学自習の習慣化を 図る。	中心とした予習・復習の学習スタイルを確立させる。 ・英語や国語の小テスト、数学の章末テスト等の実施で、学習の習慣化と基	34			自律を促したい。平日と休日、 さらに、中長期的な見通しを
		礎力の定着を図る。さらに、始業前時間や休み時間の効果的な利用を勧め、 自学自習の態度を育成する。		A		持って計画、修正、実行していく態度を身に着けさせたい。
		・補習や課外、面談等を実施して、生徒の個々に応じたきめ細やかな指導を 行う。	367	A		・ICT の必要性が高まる中、
2		・授業・HR・学年集会等のあらゆる機会に、2学年での学習習慣の重要性 を認識させ、自ら学ぶ姿勢を確立させる。		A		環境の整備が必要である。(教室への固定 web カメラの設置
	# 1 / 1 / 2 / 2 / 2 / 2 / 2 / 2 / 2 / 2 /		(8)			等。)
	・基本的な生活習慣の確立 をめざし、規律正しい学	・個別面談、学校行事、クラス行事など様々な場面において、積極的に生徒 と接し、適切な指導や支援を行い、自律的な生活の定着を図る。	! !	A		・コロナ禍の中で、基本的な
学	校生活が送れるように努める。	・緑高生としての誇りを持たせ、あいさつの励行、身だしなみや規範意識の 高揚を学年団の共通理解の下、日常の学校生活において促す。	89	В	В	生活習慣を身につける事が難しくなっている。本来、高校
		・日頃から整理整頓を心がけ、自ら進んで清掃するなど環境整備を指導する。	891011	Α		入学前に身に着けておくべき 事がなされていないままで入
<u>/</u> zr:	・互いに個性を尊重し健全	・学校行事、部活動、生徒会活動に積極的に取り組ませることで、生徒個々	189	A		学し、指導に追われる状況が
年	な人間関係の構築を図る。	のコミュニケーション能力、主体性、協調性を育み、人間的成長を促す。 ・HR活動や学校行事を通して、相手を尊重する心や積極的に集団へ寄与す	89	В		増えている。
		る姿勢を育み、人間的な力量・能力の向上を図る。 ・修学旅行を通して、協調性と集団生活のあり方を学び、今後の生活に生か	89	 A	A	・生徒指導の在り方が世論の 影響を受け、ここ数年で変わ
		せるようにする。 ・海外研修を通して、国際性とコミュニケーション能力を育成し、語学、科	į	ļ		ってきている事が指導を難しくしている。
		学への興味を深め、進路決定に生かす。	i i i ¹ ೧೦೧೯೧೯	A		\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \
			! !			

評価項目	具体的目標	具体的方策	関連番号	評価	次年度への課題
2 学 年	・進路目標を設定し、進路目標達成に向けて、環境をしっかりと整える。	・大学見学や大学研究等を通して、志望大学・学部・学科を絞り込ませ、進 路目標の具体化と受験の準備目標の明確化を図る。 ・各科目の弱点克服に向け、基礎学力の強化を図る。 ・進学に対しての意識の強化を図り、2年から3年の受験に向けた学習計画 を立てさせ、自立的学習へ移行させる。	234	A A B	・志望大学・学部・学科の選択は、職業観の育成と一体化が求められる。安易に推薦入試に流れないようにすべきか。
	・授業を中心とした学習活動 と各自の目標にあった自学 自習の習慣を確立させる。	・自律的な家庭学習の定着を図るとともに授業を中心とした予習・復習の学習スタイルを確立させる。 ・補習や課外、面談等を実施して、生徒の個々の適性に対応した個別最適な学びになるようにきめ細やかな指導を行う。 ・ICT を有効活用し、課題解決型学習を通して批判的思考力や論理的思考力の育成を図る。	378	A A A B	・各自がそれぞれに目標を定めることで、自学自習の習慣が身についていった。 ・課題解決型学習は、あまり実施できなかったが、生徒がタブレットを持っていないことや受験を考えると仕方ない
3 学	・きめ細やかな指導を通して 生徒の第一志望の進路実現 を図る。	・進路実現に対しての意識の高揚を図り、進路目標を明確にさせ、時期に応じた適切な学習計画を立てさせ、実行させる。 ・大学卒業後の職業観も含め、大学について十分に研究させ、志望大学・学部・学科を絞り込ませ、進路目標を明確にさせる。		A A	と思う。 ・なかなか進路目標を決められない生徒もいたが、丁寧な 指導により、目標を定め努力 することができた。
f f	・最高学年として、また成人 としての自覚と責任を持ち 規律正しく行動し、充実し た学校生活が送れるように する。	・緑高生としての誇りを持たせ、あいさつの励行、身だしなみや規範意識の高揚を、学年団の共通理解の下で日常的に継続して促す。・個別面談や学校行事、クラス行事など様々な場面において、積極的に生徒と接し、適切な指導や支援を行い、自律的な生活の定着を図る。		A A	・あいさつや身だしなみについて、共通理解のもと、継続的な指導を行うことができ、 落ち着いた生活であった。 ・1年生から自ら考え判断し
年		 ・成人としての自覚を促し、社会的な義務や責任を果たせるよう、これまで学校行事、部活動、生徒会活動等で経験してきたことを踏まえて、自ら考えて判断し行動することを通してさらなる人間的成長を促す。 ・HR活動や学校行事を通して、相手を尊重する心や積極的に集団へ寄与する姿勢を育み、主体性・自律性・創造性の育成を継続して図る。 ・日頃から整理整頓を心がけ、自ら進んで清掃するなど環境の整備に対する意識を高める。 ・理数科においては、SE課題研究のまとめを行い、研究発表会を成功させられるよう支援する。 	900	A A A A A A	行動することを伝えてきたので、多くの生徒が責任ある行動多くの生徒が高になってきるようになってもいる。 ・周囲の協力のおかげで、素晴らしい課題研究発表会にず、た。感謝の気持ちを忘れず、やって、今後の学びにつなげてもらいたい。

評価項目	具体的目標	具体的方策	関連番号	評価		次年度への課題
	・自学自習の習慣化を目指す。	・授業進度計画に沿いかつ生徒の実態に応じて授業を行う。 ・学習ガイダンスを実施し、適切な予習復習の仕方を提示する。各授業においてその定着を	<u>12</u> 13	A		・国語の学習に向かう姿勢を 高める授業の工夫
国		図る。 ・授業や時事の話題と関わる文学作品・新聞・新書等も含めた、幅広く適切な分野の読書案 内を通じて、読書意欲を喚起する。	1211	В	A	・古典学習の定着と大学入学 共通テストに対応した力の養 成
	・音読を重視する。	・句読点や抑揚に留意し、各教材文の特性を意識させた音読指導を実施する。	1)	A	A	[□]
語	・語彙力・記述力の定着を図る。	・大学入試共通テストに対応した語彙力・記述力を身に付けられる授業を展開する。身に付けた語彙力や記述力を使い、論述問題や小論文等に対応できるようにする。	123	В	В	した読解力の養成
科	・古語や古典文法の理解・習得を目指す。	・小テスト等も活用し、基本事項の定着を図る。	<u>3</u>	B A		
	N C P II / 0	・辞書、文法書等の補助教材を適切に活用する授業を展開する。 ・作品を通じて、品詞の働きや古語の表現上の特徴に慣れ、読解に役立てるような授業を行う。	23	A	A	
	・漢語や漢文句法の理解・習得を目指す。	・小テスト等も活用し、基本事項の定着を図る。 ・代表的な句法を、用例を通して定着を図る。	3	B B	В	
地	計画的な学習指導を実施する。	・年間指導計画に沿って授業を行う。 ・年間指導計画を活用させることで、生徒に自学自習の習慣を確立できるよう支援し、生徒の主体性と意欲を引き出す工夫をする。	<u>123</u> 34	A B	В	・ICT機器を活用した授業にまだ人により温度差があり、その点について発料の
公公	・基礎的内容の理解の徹底と授業方法を研究する。	・進学・受験に向け、学習ノート・演習問題集の利用をすすめ、基礎的知識を習得させる。	12	A		での情報交換をより活性化 する必要がある。 ・新たに始まった新課程の科
民		・課題学習や調べ学習などを実施し、対話や発表を通し、コミュニケーション能力・批判的 思考力・論理力を育成する。 ・ビデオ・パソコン・プロジェクターなどのICT機器を効果的に利用する。	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	В	A	目についてその授業方法は 試行錯誤の段階であり、継
科	・生徒の学習活動を適切に評		3	A		続して授業研究を行うことが必要である。 ・適切な観点別評価のため、
	・ 生徒の子首石動を適切に許価する。	・学年・学科・類型に対応した適切な考査問題を作成する。 ・ノート・レポート提出、発表態度などを含めて総合的な評価を行う。 ・観点別評価に留意し、知識・理解に偏らない評価を行う。	① <u>⑤</u> ⑤	A A B	A	
	・基礎的内容の理解と学習習 慣の定着の徹底を図る。	・予習・復習を徹底させることで学習習慣の定着を図る。 ・生徒が理解しやすいような授業を展開し、学習課題を工夫することで基礎内容の理解を図	<u>(1)(2)(4)(5)</u> (1)(3)	<u>A</u>	A	・共通テストの動向を踏まえた指導方法、内容の工夫。
数		\$.		В		・新課程における評価の洗練。
	・入試に対応できる応用力・ 表現力の育成を図る。	・平常課外や長期休業中の課外、章末問題の演習等を利用して応用力の育成を図る。	1267 8	A	A	
学		・定期考査や課題考査、単元テストや課題等の添削を通して、答案の記述の仕方について指導する。1、2年生では、大学入学共通テストを意識した問題を考査に取り入れる。	145	В		確立
科	・指導方法の研究を行う。	・大学入学共通テスト等の動向を踏まえ、数学的な見方・考え方を働かせながら、問題を自主的、協働的に解決することができるよう、主体的・対話的で深い学びの実現を図るための指導法の研究を行う。 ・ICT 機器の利用と指導と評価の一体化について、研究を行う。		В	В	- ・生徒のタブレット端末の活 用
	スーパーサイエンスハイス クール(SSH)の円滑な 運営を行う。	と連携して実施する。	2013 291213	В	В	

評価項目	具体的目標	具体的方策	関連番号	評	価	次年度への課題
	基本的内容の定着の徹底を 図る。	・考査、模擬試験、小テスト、振り返りシート等の結果から生徒の基礎的・ 基本的事項の理解度を確認し、学習指導に生かす。 ・理解が不十分だと思われる生徒に対して、補習や課外授業などにより基本 的内容の定着を促す。 ・学習課題の明確化による、ポイントを押さえた授業を行う。	234 23	A B	A	・小テストや振り返りシート などの効率化(ICT機器を 使用)
		・学習課題の明確化による、ポイントを押さえた授業を行う。	1234	Ā		・観察・実験を通しての思考力を養えるような工夫
理	・科学的な思考力・表現力の育成を行う。	│ 程において対話的で深い学びを実現するように学習活動を工夫する。	<u>1</u> 234	В		・レポートや報告書の作成指
		・科学的な概念を踏まえて考察したことの白頭発表やパワーポイント、ポスター等を用いたプレゼンテーション、報告書の作成など発表の機会を多く 設定する。	1249	В	В	示と評価方法の検討 ・実験回数の増加
科	・基本的内容を受験で生かすための応用力の育成と向上	・理解が深まる授業展開と、生徒一人ひとりが大学入試を意識できる問題演 習を系統的に行う。	237	A		・他教科との連携を図り、生 徒が多方面から考えられるよ
	を目指す。	・課外授業は個々の智熟度に合わせて実施するとともに、授業や自学自習と 効果的に結び付いた指導をする。 ・各大学の出題傾向を研究・分析することにより、より効果的に応用力を向	137	Ā	A	うにする。
		・各天学の出題傾向を研究・分析することにより、より効果的に応用力を向上させる授業を展開する。	2367	В		
	スーパーサイエンスハイス クール(SSH)の円滑な	て渡りおく演説する	1213	A	A	
	運営を行う。	・SS 科目や Science などの科目で科目横断的な内容を扱い、SE 課題研究や SP 探究、SP 科学との関連を図る。	12(13)	В		
	・体力の向上を図る。	・体力テストを実施し、自己の体力を認識させ、体力の保持増進に対する意識を高めさせる。	4	A	A	・体育の各種目においてより 高度な技能を身に付けさせる
<i>I</i> □		識を高めさせる。 ・運動量の確保に努める。 ・女子生徒の体力の向上を図る。	<u>4</u> <u>4</u>	A		高度な技能を身に付けさせる 高度な技能を身に付けさせる 為、ICTを活用して動画を見 せたり、自己の動作分析を行 えるように環境を整え、実施
保健	・技能の向上を目指す。	・各単元において、個に応じた指導を工夫し、技能の修得とスキルの向上を - 月指す。	24	A	A	えるよりに環境を登え、夫肔 していく。
体		・3年次に選択授業を実施し、生徒に主体的な活動を実践させることにより マイスポーツの獲得につなげるようにする。	: 	В	A	
育	健康・安全への意識を高める。	・日常生活の中で健康に関心と自覚を持ち、運動やスポーツを実践する中で 安全面に配慮するとともに用具管理の徹底に努める。	4	A	A	
科	•	・日常生活の中で健康に関心と自覚を持ち、運動やスポーツを実践する中で安全面に配慮するとともに用具管理の徹底に努める。 ・集団行動を通し、公正・協力・責任などの態度を育てる。 ・チャイムと同時に県民体操を実施し、保健安全への意識を高める。	<u>4</u> 5	A	11	
	・授業時間の確保に努める。	・教科内における填補を充実・徹底させ、授業時間の確保に努める。	4	A		
		・教員間の共通理解のもと規律ある集団行動の確立に努める。	4	Ā	Α	
芸	・基礎的な技能を身に付け、 自ら発想・表現できるよう にする。	・基礎、基本となる実技を繰り返し行い定着させることで、そこから自分ら しい発想や表現ができるようにする。	<u>;</u>	A	A	・友人の作品を鑑賞する機会 は各題材ごとに確保できまで たが、 長の鑑賞時間の確保を心がけ
術	・芸術に興味関心を持ち、自主的に作品を制作(楽曲を	・作品を制作すること(楽曲を演奏すること)により、自己を表現する技術を身に付けられるようにする。 ・作品の提出期限を守るよう指導する。 ・自主的に思考・判断し、作品を制作(楽曲を演奏)できるようにする。 ・様々な作例、友人の制作作品(演奏)を鑑賞することにより、作者の心情 や意図、表現の工夫等を学べるようにする。	123	A		前の鑑負時間の確保を心かり たい。
科	・芸術に興味関制を作りる、曲度では、一世を作りる。 (本語の) をできる。 (本語の) をいきる。 (本語	・作品の提出期限を守るよう指導する。 ・自主的に思考:判断し、作品を制作(楽曲を演奏) できるようにする。	<u>(1230</u> (123	A	Α	
	・作品(楽曲)の鑑賞や制作 を通して自己を深く見つめ る姿勢を培う。	・様々な作例、友人の制作作品(演奏)を鑑賞することにより、作者の心情 や意図、表現の工夫等を学べるようにする。	(1)(2)(3)	В		

評価項目	具体的目標	具体的方策	関連番号	評	価	次年度への課題
	・基礎的な内容の理解徹底と ともに応用力、実践力を身 に付けさせる。	・授業における本校生徒のレベルに合った補助教材とプリントの活用や小テストの実施により、基礎的な内容の理解の徹底と応用問題の解き方を指導する。	1348 12	A	A	・引き続き、指導と評価の一体化を進める。
英	(CN) () & & Ø ₀	・特に上位層や下位層には個に応じた個別指導を行い、より良い進路実現を 目指す。	245	A	A	・学年間の引継ぎを行い、効 果的な教育活動を行いたい。
	・自学自習の確立を目指し、 学年に応じた家庭学習の習	・1、2年生には副教材の単語集・文法問題集等を渡し、課題を課すと共に 小テストを通して、その実施状況や定着度をチェックする。	!	A	A	・学習内容の教育活動内での 優先事項について話し合って
語	慣をつけさせる。	・3年生には大学受験用の問題集を自宅学習用として渡し、授業や小テストで定着を図る。	138	A		きたい。 ・理数部との連携を図ってい
科	・総合的な英語運用能力の養成を図る。	・外部試験等を活用し、英語力を継続的に測定することで授業改善に役立てる。	①⑦	A		きたい。
	/// C	・ 4 技能の向上を念頭に、授業でのペアワーク、グループワーク等の時間を 確保し、主体的に学ぶ力を育成する。 ・指導に活かす観点別評価を工夫し、指導と評価の一体化を進める。	14812	A	A	・次年度も ALT の有効な活 用により、学習の動機づけや
			5	В		英語運用能力の向上を図る。
	・指導法や教材についての情報交換と共有化を図る。	・教材を担当者間で共有し、指導の共通化を図る。 ・各種研修会に参加し、情報を共有することで指導力向上を図る。 ・スーパーサイエンスハイスクール(SSH)における英語の授業を理科や	<u>4</u> <u>14</u> <u>4</u> <u>12</u>	A B B	В	
		- スーパーリイエンスパイスケール (SSH) における英語の授業を選择や - 情報の担当者と連携し、内容及び指導法を工夫する。 - 3年生では進学先に応じた授業内容を展開する。	136 135	В 	В	
	・生活に必要な基本的知識・			_A_		・年間指導計画を見直し、
家庭	技術を習得させる。	・生徒が主体的に取り組めるよう適切な教材・教具を提供する。 ・生徒一人一人の進度状況に応じた指導を行う。 ・施設・設備の安全管理に配慮し、実験・実習を実施する。	② ③ ①⑤	B B	В	実習・実験の時間を今まで 実習・実験の時間を今まう 以上に増やしていけるよう 努力する。
科	・自らの生活の向上を図る力 と、実践的な態度を育成す る。	・学習したことを生かして、自らの生活課題の解決を図ることができるよう にする。	1234 9	A	A	・ICT の活用は他教科と協力 しながら充実させていく。
	・情報活用の実践力を身に付 けさせる。	・生徒に課題の内容やその目的を明確に提示し、課題解決の手段を考え、的 確に情報を活用できるように指導する。	15	В	В	・情報に関する基礎的な理論 について、理解が深まるよう に教材を工夫して指導を行う
情	・情報の科学的な理解を深める。	・情報に関する基礎的な理論について、理解が深まるように教材を工夫して 指導する。	13	В	A	ことができた。また、共通テスト対策に向けた情報収集と 授業の試行として、プログラ
報		・プログラミング言語 (Python) の学習を通して論理的思考を深めるように 指導する。	Ū3	Α		ミング (Python) の授業を展開した。生徒の論理的思考を深めるために、課題解決の手段と的確認判断できる能力の
科	・情報社会に参画する態度を養う。	会に参画する態度をより具体的に考えられるように指導する。	! ! !	В	В	育成にも労めた。 ・次年度からは新課程の「情
	・スーパーサイエンスハイク ール (SSH) の推進を支 援する。		12)	В	В	報I」になるため、学習評価 や年間の授業計画を再度見直 し効果的な授業展開をしたい
		・「SP探究」、「SE課題研究」における実験や観察等で得られたデータを正しく処理することができるよう、統計教育の充実を図る。	4812	С		し別不明な1又未按 州でした(・
	・共通テスト対策	・共通テスト対策に向けた情報収集と授業での試行を行う。	48	В	В	

評価項目	具体的目標	具体的方策	関連番号	評	価	次年度への課題
	・各教科の学習指導の充実の ための支援を行う。	授業時間の確保 ・適切な時間割編成と考査ごとの授業確保のための日程調整を行う。 ・授業準備の効率化と業務量の軽減のための方策を考える。 ・ICT機器の活用について、理解を深める。	23 <u>5</u> 15 474 4	B _A B	В	・時間割作成については、 時間短縮を図りたい。また、 特別編成時の配慮の希望に ついては、意見の集約をし
教		生徒の主体性を引き出す授業の質的向上 ・指導力向上支援のため、授業の相互参観による研修を推進する。 ・新指導要領に対応した内規の改正を速やかに行う。 ・効果的な学習指導を目指した年間指導計画を作成する。	<u>1234</u> 1235 1254	B 	В	たい。 ・ネットワーク環境と機材 の不具合については、人的 な課題が多く、育成が必要 である。
務	・教育課程の研究とその運用・改善を行う。	・生徒の主体性を引き出す学習指導、評価についての運用と改善を推進する。 ・「スーパーサイエンスハイスクール事業」(SSH)での教育課程の確かな	5	A	A	・新教育課程への授業の中 身の対応、評価への対応は 随時検討する。実際に評価 と指導を行いながら進めて
	・ネットワーク環境の管理と、不具合への迅速な対応を行	運用と改善を行う。 ・校内サーバ・PC・プリンター等の管理と不具合への迅速な対応を行う。 ・情報委員会の生徒によるIT機器の管理を行う。	<u>34</u> 394	A A B	A	
部	う。 	・情報機器の積極的活用のため、ネットワーク環境の改善を行う。	394 34	A B		
	・支援システムの利用への対応	・学校支援システムの活用の研究を進める。	54	A	A	
	教育情報ネットワーク・学校 Wifi を全員が快適に利用できる態勢を構築する。	・教員向けのネットワーク活用のための情報提供を行う。必要な場合は研修を実施する。 ・MAC アドレスの登録、GoogleWorkSpace を使えるような手続き、その他研修を実施する。	I I	A	A	
学	・学力の向上を図るとともに、 主体的学習習慣を身に付け させる。	・主体的対話的で深い学びにつながる授業改善を図るとともに、知識・技能だけでなく、生徒の思考力・判断力・表現力を育成する授業や評価法の実践に努める。また、適切な課題を与え、課外等を実施する。	(5)(12)	A		・各教科の指導法や評価法に ついて、進路指導部として直 接関わることは難しかった。
習		に努める。また、適切な課題を与え、課外等を実施する。 ・学習記録をつけさせることで、家庭学習時間の確保・増加に努めるととも に学習時間の把握にも努める。	! !	В	A	学力向上推進事業にかかわる 先生方のレポートを見ると、
進路		・生徒の学習習慣の確立を援助するために、学習室を平日放課後 19 時まで 開放する。また、土曜日も8時半から17時まで開放する。	(4)(15)	A		素晴らしい取り組みをしている先生がおり、教科の枠を超 えて様々な取り組みを共有
指	を図る。	・集会や配付物(学進通信等)で生徒の進路意識の高揚に努める。 ・ガイダンスにより、生徒の能力や適性等自己理解を深化させる。 ・大学模擬授業・進学セミナー等の行事を通して、進路意識・学習意欲・職	468 468 4689	A	A	し、自らの教科に活かすこと は可能であると考える。 ・学習時間がもう少し増やせ
部		業意識を高める。 ・進路資料・学進通信の内容の適切化に努める。 ・キャリアパスポートを活用し、自らの学びや経験を振り返る機会を設ける ことで、明確な目標を設定し、それを実現するための見通しを持てるよう支援する。	(13) (4) (4) (6) (7) (8)	A A B		ると良い。各学年で学習時間 を記録する工夫はしていただいているので、学習記録をき ちんと振り返る機会が必要である。

評価項目	具体的目標	具体的方策	関連番号	評	価	次年度への課題
学	・進路希望の実現をめざし、 進路実績の向上を図る。	・外部模擬試験のデータ分析に努め、各教科、各学年とともに連携し、学力 の定着に寄与する。	① ③ ④ ⑤ ⑧ ④ ⑦	В		・ベネッセ等から講師を派 遣してもらい、講習会を開
学 習 進 路	た四人順27円上で四つ。	・生徒の学力向上及び入試対策のために、課外・面接指導を企画・実施する。	1234 85	A	A	くなどして、Fine System や Kei-navi といった成績分析
始 指 導	・職員への進路(進学)データの提供レタ教科レの連携	・生徒実態調査(アンケート)を分析し提供する。 ・教科ごとの模試データを作成し、各教科の弱点発見と克服に寄与する。	<u>467</u> <u>1345</u>	_A_		システムツールを各先生方により効果的に使ってもらうためのサポートを充実さ
部	を図る。	・教件ことの模式/ /を下成し、音教件の物点光光と光版に可予する。	80	В	В	せたい。
生	制服の正しい着こなしの定着を図る。	・生徒会を中心として生徒自ら正しい着こなしについて考え、生徒相互の確認(校紀委員)や職員により正しい制服の着こなしやマナーを考えさせる。	910	A	A	・服装やスマートホンの取 り扱いなどのルールが変わ
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	・「交通ルールを守る」等の 交通指導を継続実施する。	・PTA合同の交通安全指導等により、自転車運転ルールの遵守を指導する。 ・自転車の鍵閉めや、自転車点検整備などにより、自転車の自己安全管理の 指導をする。	910	В	В	り扱いなどのルールが変わる過渡期になるので、も提示 員だけでなく生徒にも提示 し、徹底を図る。
導部	・教職員の生徒指導に対する 意識の統一を図る。	・校則(服装等)や指導の方法(スマートフォン等)が変わる中で、文書や職員会議などで確認しながら、全学年でできる限り共通理解を持って指導する。	910	В	В	
日)	スマートフォン等の安全な利用方法とマナーを修得させる。	・講習会等を利用しながら、スマートフォン等のマナーをしっかり理解させ、 安全で節度ある利用の仕方について注意喚起する。・定期的にネットパトロールを実施し、不適切な書込みについてはその都度 指導していき、いじめ等の未然防止に努める。	i	A	A	
	・行事への参加意識の高揚と 職員の協働体制の構築を図	・行事において生徒一人ひとりが一役を担い、自主的・主体的に活動できるよう企画・運営を進める。 ・特別活動部の情報の共有化を図り、組織的な運営ができるような体制を整	9	A		・例年通りに学校行事を行 うのではなく、生徒の意見
特	る。	・特別活動部の情報の共有化を図り、組織的な運営ができるような体制を整える。 ・生徒会本部役員の立候補者が確保できるように、各学年との連携を深め、 リーダー育成のための活動の場を設ける。	1914	В	A	ではなく、生徒に対して、生徒に対して、生徒に大きに大きに大きに大きに大きに大きにはない。 生徒にはない。 では、というではない。 では、というではない。 では、というには、ないが、ないが、ないが、ないが、ないが、ないが、ないが、ないが、ないが、ないが
別 -			1 T	A		一人な活動かでさるよりに
活	・部活動と学習の調和を図る。	・部活動では、本校の部活動運営方針を踏まえて適切な休養日を設け、生徒の健康や生活リズム等に配慮するとともに、各学年と連携しながら学習時間の確保を指摘する。	49	A	A	する。
10		間の確保を指導する。 ・部室の使用と管理について規則を遵守させる。	910	A		
動	・「緑高祭」の質の向上を目 指す。	・実行委員会を中心に生徒の主体性を重視し、参加意識を高めるとともに質の向上を目指す。	i ¯	A	A	
部		・企画・運営におけるリーダーを育成するための活動の機会を設け、組織力 を高める。	! ! !	A		
	・活発な部活動を維持する。	・運動部・文化部とも活発な活動を学校全体で支援できるような体制作りを行う。	i	A	Α	
	・キャリアパスポートの実践に取り組む。	・自らの学習状況と部活動やホームルーム・学校行事等での活動を記録する ことで総合的な自己評価につなげる。	(1)(4)(9)(10)	В	В	

評価項目	具体的目標	具体的方策	関連番号	評	価	次年度への課題
	・健康相談の充実と健康教育 の啓発を行う。	・保健室来室者・担任等の情報により精神的ケアの必要な生徒を把握し的確 か指導をする。	(10)	A		・性教育講話の内容及び講
	2 H 20 G 11 2 0	な指導をする。 ・教育相談部のスクールガウンセラー制度との連携を密にし、チーム支援を 行う	810	Ā	A	師の見直し。(ここ数年毎年)同じなため)
保		行う。 ・保健委員会と連携し、「健康講話」を実施する。	 	В		・防災訓練時の避難経路の見直し。
健	・学習環境の整備と美化の推 進を図る。	・清掃監督者や整美委員会等と連携し、学習環境の美化を維持する。 ・授業担当者・事務と連携し、エアコン使用時の換気・設定温度を徹底する。	10	<u>A</u> A	A	・生徒自身の危機管理意識 の醸成 ・自助、共助、公助の育成
厚 生	・災意識の涵養と災害を想定 した適切な避難誘導を行 う。	・全職員が役割を分担して誘導に当たり、安全かつ迅速な避難行動がとれるように防災避難訓練を実施する。	10	A	A	• 日助、共助、公助の自成
部	・奨学金応募業務の円滑化を 図る。	・迅速に情報を提供し、応募生徒の書類の確認・指導、申請を的確に行う。	10	A	A	
	・昼食販売の円滑な運営を図る。	・行事日程等の連絡を販売業者に伝える。	917	A	A	
	・授業、発展的学習、進路指導に活用できる図書を更に	・各教科、各分掌、生徒(6月校外図書選定等)からの希望・推薦図書を - 揃える。		<u>A</u>		・POP 及び DVD の充実を 図り、利用人数の増加を目
	充実させる。	揃える。 ・学習進路指導部と連携し、前後期に進路関係の図書を充実させる。 ・理数科と連携し、理科関係の「SSH図書コーナー」を充実させる。 ・TSP科学」、「SP探究」のための図書の充実を図る。	6(7)8 (1)4(12)(3) (1)(2)(3) (3)4(17)	A A A	A	指す。
		・学校内における生徒の居場所として、開かれた図書館を目指す。	3417	A		
図	・生徒の図書館利用を促進する。	・年間 2000 冊以上の利用を目指して貸し出し業務や委員会活動を行う。 ・国語科と連携し、4月の「1学年図書館オリエンテーション」を実施す	<u>491)</u> 49	В		
書		る。 ・図書委員編集による「図書館ニュース」(「図書館報」)を毎月発行し、広報活動を推進する。	248	A A	A	
Ħ .	・図書委員会の活動を活発に	・授業日のカウンター当番を各クラス図書委員が行い、委員会活動を活発	19	A		
容	する。	にする。 ・図書委員生徒の編集による「図書館ニュース」(「図書館報」)を毎月発行	129	A		
		・図書委員生徒の編集による「図書館ニュース」(「図書館報」)を毎月発行し、広報活動を積極的に行う。 ・図書委員会として「校外図書選定」を実施し、購入希望図書の選定を行	<u>1)</u>	C	В	
		・図書部の研修会に参加し、活動の活発化を図る。	19	С		
	・視聴覚教材を充実させる。	・DVDを開架し、校内での利用を促進する。 ・各教科、各分掌等からの教材推薦を受けて視聴覚教材の充実を図る。	<u>129</u> 1238	A B	В	

評価項目	具体的目標	具体的方策	関連番号	評	価	次年度への課題
	心を持ってもらうように働	・新型コロナウイルスの感染予防症対策を十分に行い、PTA総会・公開授業 への参加を促す。	8917	A		・コロナによりPTA活動 が制限されたが、昨年度よ
渉	きかけを行う。	・広報部と連携することで、PTA活動・同窓会活動の状況をできるだけリアルタイムで発信する。	817	A	A	りも少しずつ規模を縮小し ながらも実施できるように なった。 PTA総会の在り
外	・充実したPTA教育講演会 などのPTA研修について	・新型コロナウイルスの感染予防症対策を十分に行い、魅力ある講師を招聘することで、教育講演会の充実を図る。 ・新型コロナウイルスの感染拡大を考慮して、研修視察についての在り方を	29	A		方なども含めて、検討していく必要がある。
部	企画・実施する。	・新型コロナウイルスの感染拡大を考慮して、研修視察についての在り方を 含めて更に十分に検討していく。	9	A	A	・また、今年度緑高祭の制限付き一般公開が開催されたので、今後PTA苫動の
	・ P T A 学年委員会の活性化 を図る。	・各学年委員会に対して、学校行事等でサポートを継続することにより、 各学年委員会が P T A会員のネットワークづくりの中心となるように推進して いく。	9	В	В	参加も検討していきたい。
		・PTA学年委員へ緑高祭の丁寧な参加案内することで、運営委員会・学年委員会が 中心とした企画・運営を継続する。	9	В		
広 報 部	・広報・PR活動を推進する。	・本校の広報・PR活動の新たな可能性について広く調査・研究し、その	9 9 9	A A A B	A	・夏の学校説明会について 気新型コナ感染対策の 方針変更に対応した、高い中学生のより満足度の高い内容の検討。 内容の検討。 本校ホームページの情報 発信力をさらに高めるための表現方法・内容の検討。 学習塾対象説明会の参加 塾数増のための方策。
教	・問題を抱える生徒を早期に 発見し、職員間で情報間で 情報共有する。	・学年と協力し「月別欠席調査」を部会で集計して問題を抱える生徒を早期に発見し、部内・職員間の共通理解と連携をはかる。 ・月別集計結果や担任への聞き取りから、欠席の多い生徒や問題を抱える	i J !	A	A	・情報共有の方法は、業務 日誌を活用する。 保健室来室時、相談申込
育	教育相談研修会を実施し、	生徒に対して、カウンセリングを積極的に働きかける。 ・生徒の心の問題に深い理解と豊富な経験を持つ人を、講師として人選す	9(617)	A		フォーム、HR担任との面 談などで、生徒の相談を受 け、場合によりスクールカ
相談	教職員の理解と技能を高め る。	る。 ・研修後に本校職員対象のアンケートを実施して意識を高める。	907	A	A	ウンセリングにつなげる。 ・教職員研修会を実施する。
部	・スクールカウンセリングの 充実をはかる。	・スクールカウンセラーの継続的なカウンセリングを実施する。 ・コンサルテーションを実施することにより、スクールカウンセラーと教育相談部員、クラス担任・学年との連携をはかる。 ・「教育相談だより」を年度初めに発行し、SC と その他の相談窓口(LINE、電話、メール)の広報をする。	<u>89</u> 9	<u>A</u> A	A	・SCのコンサルテーションの時間を確保し、関係者の連携をはかる。 ・各種相談窓口や研修のお知らせをする。

評価項目	具体的目標	具体的方策	関連番号	評	価	次年度への課題
	・スーパーサイエンスハイス クール (SSH) 事業第2 期5年次として、総まとめ	・SSHの各事業を計画的に実施し、その成果の評価・検証を教職員全体で取り組む。	1234 5623 17	В		・SP 探究において生徒と アドバイザとの報告、連絡 などのコミュニケーション
	をするとともに次期に向けてさらなる発展を図る。	・SSHの各事業を進めるにあたり、運営指導委員をはじめ、大学や小中 高等学校、特別支援学校、自治体や企業などと積極的に連携を行う。		A		を十分に取らせるよう指導する。
理		・「SP探究」の実施にあたり、先生方が適切にアドバイスできるよう研修 を充実させ、情報を共有しながら進める。	(12)(13)(14)(17)	A	A	・課題研究や探究を通して、不透明な未来を切り拓
数			12(13(14)17)	В	•	く力や挑戦心の育成 ・生徒、教職員がともに充
部			1246 923	A		実感や達成感を共有できる 学びの深化
当)	・理数教育の充実を図る。	・「SE課題研究」では、担当者との連携を密にし、最終発表会や論文作成までを見通した計画を立てさせ、論理的思考で多面的・多角的な視点から研究に取り組む態度を育成する。	1281	В		
		・「SE課題研究」の評価は、ループリック評価を用いて行う。	1210	В	В	
		・SS科目において教科横断的な内容を取扱い、様々な知識を統合し活用する力を育成する。	121	A		
事	・予算の適法かつ効果的な執 行により教育環境の充実を 図る。	・予算について、執行計画を作成し、適法かつ経済的な執行に努め、教育 環境の充実を図る。	(I)	В	В	・予算執行計画に基づき効果的な特行に努める。 ・維持管理のため必要な修
務	・施設設備の維持管理に努める。	・職員間で情報を共有し、施設設備の修繕や維持管理に努めるとともに、 定期的に施設設備を確認し、要修理箇所について迅速に対応する。	$^{\textcircled{1}}$	A	A	様を計画的に実施する。 ・換気対策を引き続き踏ま えながら、窓開放時にも電
部	・省エネルギーを推進する。	・省エネルギーについて、デマンド監視システムの活用やLED化による 節電やトイレ用擬音装置やタンク貯水型便器設置による節水を図る。	17	A	A	・窓口・電話対応は相手の
可り	・窓口等において丁寧な接遇に努める。	・県民へのサービス向上に努め、窓口及び電話等の対応を丁寧に行うとと もに来校者受付事務や生徒、卒業生への各種証明書発行事務について、 親切かつ丁寧な対応に努める。	17)	В	В	立場に立ち明瞭・丁寧に応 対し、困難な事案には速や かに複数職員で対応する。

※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている E:できていない

D:不十分である